

事故防止に向けた安全対策

【 ローイング 】

1 競技特性

- (1) 実技指導書等を参考に、競技の特性や特徴を記載する
- (2) 競技特性に応じた事故の特徴を記載する
- (3) 過去の重大事故例等を記載する

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ オールを振り回す ・ 艇の損傷 	捻挫、打撲、擦過傷、骨折 など 擦過傷 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ オールを持ち運ぶ際には周囲の安全確認を徹底すること ・ 出艇前に艇の確認を行う

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
ボートコース ・ 終始背面方向への進行になるので、前方を確認できず衝突事故が起こる危険性がある。	捻挫、打撲、擦過傷、骨折 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前方にいる漕者は危険な状況になる前に声掛けをする。また、遅い選手やクルーはコースの外側を利用し、早い選手やクルーはコース中央を利用するなど、コース利用の方法を明確に提示し、選手達に安全を確認した上で実施する

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温多湿の環境下や長時間にわたる練習による熱中症 ・ 暴風波浪の環境下の練習による事故 	熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病 捻挫、打撲、擦過傷、骨折 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境状況に応じた運動、休憩、水分補給等の計画を立てる ・ すぐにアイシング等が出来るよう、道具の準備をしておく ・ 屋外での練習にこだわらず、室内練習も計画しておく ・ 屋外での練習時間を短時間に出来るよう、計画をしておく ・ 事前の気象情報の確認、当日の現場の状況確認を適切に行い、無理な判断はせず、屋外での練習だけでなく、屋内練習も計画しておく